

発巣における組織崩壊によって生成された変性自己蛋白，細菌および真菌成分，毒素などが抗原と考えられる．感作されたこれらの抗原が，原発巣からの血行性播種，原発巣の搔破による播種，病変を搔破した手によって抗原が経口的に摂取される，などの経路によって全身に散布されることで生じる．原発巣となる疾患は，貨幣状湿疹，**うっ滞性皮膚炎**，**接触皮膚炎**，**アトピー性皮膚炎**，**足白癬**などがある．

### 治療

原発巣の治療とともに，ステロイド外用薬と抗ヒスタミン薬の内服が第一選択である．

## 6. うっ滞性皮膚炎 stasis dermatitis ★

### Essence

- 慢性静脈不全（下肢静脈瘤）や静脈血流のうっ滞を基盤にして，下腿に浮腫性紅斑や湿疹局面を形成する．
- 立ち仕事をする人や高齢者，とくに肥満を伴う女性に好発．
- 自家感作性皮膚炎（前項）に移行しうる．
- 治療は通常の湿疹に準じるとともに弾性包帯の使用，あるいは静脈瘤に対する外科的治療などでうっ滞を改善することが重要．

### 症状

下腿の下 1/3，とくに内外踝上方に浮腫性紅斑が生じ，次第に暗紅褐色の落屑性湿疹局面や色素沈着をきたす．慢性化すると白色調の萎縮性局面（atrophie blanche）や皮膚硬化〔硬化性脂肪織炎（sclerosing panniculitis）〕を呈する（**図 7.15**）．軽微な外傷で容易に潰瘍を形成し，さらには使用した消毒薬や外用薬（主剤の抗菌薬などのほか，添加剤・基剤なども原因となる）によって**接触皮膚炎**を合併しうる．このとき漿液性丘疹が集簇し，しばしば**自家感作性皮膚炎**に移行する．

### 疫学

長時間の立ち仕事を職業とする人に多く認められ，女性では妊娠などを契機に生じた下肢静脈瘤に合併することがある．

### 病因

**慢性静脈不全**（11章 p.175 参照）によって皮膚血管内のうっ血が生じ，真皮上層に存在する毛細血管係蹄けいすいから出血をきたす．これにより組織にヘモジデリンが沈着，皮膚は黒褐色調と



図 7.14② 自家感作性皮膚炎 (autosensitization dermatitis)

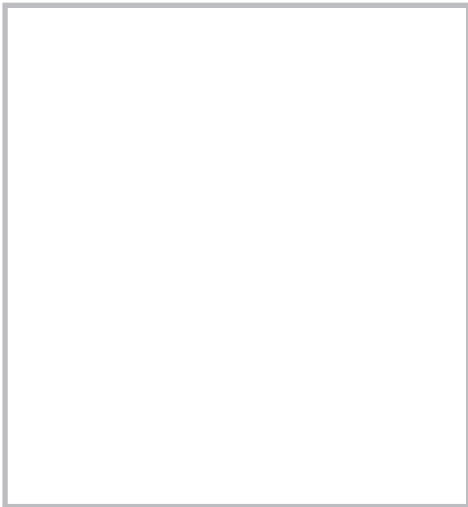


図 7.15 うっ滞性皮膚炎 (stasis dermatitis)  
下腿に生じた浮腫性の紅斑ならびに暗紅褐色の浸潤を伴う落屑性湿疹局面。循環不全により、部分的に潰瘍形成も伴っている。

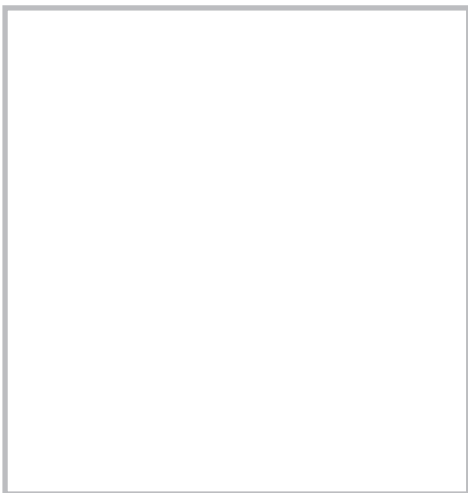


図 7.16 皮脂欠乏性湿疹 (asteatotic eczema)

なる。さらに血液還流不全により角化細胞が障害され、表皮の萎縮や落屑が起こり、潰瘍などを生じやすくなる。また、皮膚バリア機構が崩壊し、外来刺激に対する反応性が高まって湿疹病変を形成しやすくなる。

#### 検査所見・診断

下肢静脈瘤の存在および皮疹の性状、分布から、診断は容易である。静脈瘤の病態把握のためにドップラー検査、血管造影などを行い、外科的治療適応の有無などを確認する。アレルギー性接触皮膚炎の存在が疑われる場合は、パッチテストなどを行う。


#### 治療


湿疹病変に対してはステロイド外用。潰瘍を形成した場合は洗浄や創傷被覆材などを用いることがあるが、薬剤による**接触皮膚炎**に注意を払う。また、本症の進展阻止や予防のために慢性静脈不全に対する治療が不可欠となる。弾性包帯や弾性靴下による圧迫を基本として、安静、下肢挙上、長時間の立ち仕事の回避につとめる。静脈瘤が高度である場合は外科的治療も考慮され、硬化療法、結紮術、静脈瘤抜去術などを行う。

## 7. 皮脂欠乏性湿疹 **asteatotic eczema** ★

加齢や入浴時の洗いすぎなどを背景に、皮脂や汗の分泌が減少した状態が**乾皮症** (asteatosis, xerosis. 4章 p.69 参照) である。皮膚バリア機能が低下しているため、外的刺激を受けやすい。その状態にさらに刺激性接触皮膚炎などが加わって湿疹化を生じた状態が本症である (図 7.16)。冬季など乾燥しやすい時期や環境の下で、とくに高齢者の下腿伸側で好発する (winter itch)。とくに日本人の多くの高齢者では、タオルで必要以上に皮膚をこすって洗う習慣をもつ場合があるため、外用薬を処方する前に、まず入浴時洗いすぎない、こすりすぎないという生活指導を行うことが重要である。乾皮症になる前に保湿剤を使用することが予防になる。湿疹が生じた場合はステロイド外用薬で湿疹を治療し、その後、保湿剤などでスキンケアを行う。

ウィスコット オールドリッチ  
Wiskott-Aldrich 症候群  
(Wiskott-Aldrich syndrome)

MEMO 



## 8. 汗疱, 異汗性湿疹 pompholyx, dyshidrotic eczema

手掌・足底に限局して, 急激な経過で直径2~5 mm程度の小水疱が散在~多発する(汗疱, 図7.17). さらにそれが刺激性接触皮膚炎などを合併し, 指側面や手背に拡大して痒痒を伴うことも多い(異汗性湿疹, 図7.18). 通常は数週間で落屑となり治癒する. 多汗症を合併することもあるが, 水疱の発生部位および内容は汗腺とは通常一致しない. 季節の変わり目ごとに再発する症例もある. 多くは原因不明であるが, 金属アレルギーとして生じることがある.



図7.17 汗疱 (pompholyx)  
手掌に多発する小水疱.



図7.18 異汗性湿疹 (dyshidrotic eczema)